

評価の体制

- PGO (Procurement and Grants Office) の構成 : 11の Branch/Team
- 各ブランチ/チームは、それぞれ数名から数十名のスタッフからなり、全体としてCDC内の各CIOと密接に連携を保ち、研究費が適切に管理されるように様々な業務を行っている。
- 研究費公募のための広報、申請の受付、評価委員の選択、評価会議の開催、採択結果の公表、研究費の配分などである。
- 各業務にそれぞれ専門のスタッフが関わっている。

Office of Program Service

- Information Resources Management Office
- Management Analysis and Service Office
- Procurement and Grants Office (PGO)
 - Information Technology Service Team
 - Administrative Service Team
 - Small Business Manager
 - Policy Service Team
 - Cost Advisory Service Team
 - Acquisition and Assistance Branch A
 - Acquisition and Assistance Branch B
 - International and Territories Acquisition and Assistance Branch
 - Facilities and Construction Management Branch
 - Materiel Management Branch
 - Acquisition and Assistance Field Branch

評価の要素

- 守秘義務 (Confidentiality)
- 利害関係 (Conflict of Interest)
- 評価者の出席 (Attendance)
- 評価
 - 簡易審査 (Streamline Review)
 - 本審査 (Full Review)
- 結果報告書 (Summary Statements)

守秘義務および利害関係

- 守秘義務 (Confidentiality)
 - No discussion outside the panel room
 - No discussion with colleagues upon their return to office
 - No discussion with grant applicants after meeting
 - Proposals must not be kept by reviewers
- 利害関係 (Conflict of Interest)
 - DFOs (Designated Federal Officials) will ensure that each member sign the COI form before review begins
 - DFOs will answer questions about potential COIs that arise during meeting
 - DFOs will ask reviewers with COIs to recuse themselves

評価会議

- プレ・ミーティング (Pre-meeting)
- 全体会議 (Plenary session)
 - 評価プロセスの説明
 - 各委員会へ移行
- 各委員会 (Panel session)
 - 評価プロセスの詳細説明
 - Designated Federal Official (DFO) が Chair および 進行を補助する

評価基準と配点の例

- | | |
|---------------|------|
| • 研究のニーズ | 0~10 |
| • データ入手の可能性 | 0~20 |
| • 研究目的 | 0~15 |
| • 研究方法 | 0~30 |
| • 計画の管理とスタッフ | 0~15 |
| • 自己評価に関する計画性 | 0~10 |

結果

- CDCが配分している研究費は主に契約型とグラント型の2種類に分けられ、金額及び件数の両面で前者が多くの割合を占めている。
- 評価基準については、契約型とグラント型とでは重点の置き方が大きく異なる。
- 研究費交付可否を決定する際、申請された研究テーマのニーズ、研究計画の妥当性など、複数の観点から厳密な評価が行われている。CDCでは評価者の人選にあたって5000人以上の評価委員候補者のデータベースを効率的に利用している。

全体の結論

- 助成の意思決定プロセスの透明性の向上
- ピアレビューの公平性の確保 (特に利害関係の排除と審査員の多様性)
- グラント型助成 (探索的研究) と契約型助成 (行政支援的研究) の区別の明確化
- 研究者の育成を促すシステムの拡充 (審査結果報告書、研究のわかるアドミニストレーター)

【資料】

米国における研究評価に関する研究 —研究者・審査員側の意見—

国立保健医療科学院
公衆衛生政策部長
曾根 智史
sonetom@niph.go.jp

研究目的

平成14年度に、米国NIHのグラント審査システムの訪問調査を実施した。
平成15年度は、わが国における今後の研究費助成・評価のあり方を検討することを目的として、米国の研究者及びグラント審査者に対して、面接調査を実施した。

研究方法

- ・米国イリノイ大学シカゴ校公衆衛生大学院及びシカゴ大学医学部の医学・公衆衛生学研究者を対象に、意見を聴取した。調査対象者は、研究協力者の協力を得て、両機関から選択した。
- ・合計11名に面接した。全員がNIHグラントの経験者で、ほぼ全員が審査員(Reviewer)の経験があった。

質問項目

- ①米国NIHのグラント審査システムの長所と短所は何か。
- ②短所がある場合、どのような改善が必要か。
- ③研究の事後評価の指標として、発表論文数の他に何が考えられるか。特に研究が社会に与えるインパクトをどのように評価するか。

①米国NIHのグラント審査システムの長所と短所は何か。

ほぼ全員から、現在のNIHのグラント審査システムについて、全体としては優れているとの評価を得た。特に、利害関係 (Conflict of Interests) の排除の仕組みに対する評価は高かった。

長所(実際の意見)

- ・審査委員会は20~30名からなり、様々な研究グループの人間から成り立っている。しかも、申請者と利害関係にある審査員は審査から外れなければならない。
- ・年配の研究者だけではなく、しがらみの少ない若い研究者も入るので、有名大学によるグラントの独占やポスト支配は起こりにくい。
- ・民間の施設に勤める実務者が入ることもあり、学術的な価値よりも社会的な価値から意見を言うので、これまで光が当たらなかった分野でグラントが認められることがある。

短所(1)審査員の質のばらつき

- ・適切な審査員が見つからないという問題点がある。ある分野に最も精通している研究者は、しばしば審査員になりたがらない。その結果、審査委員会のメンバーの質にばらつきが出る。

短所(2)審査委員会独自のカルチャー

- ・声の大きい2, 3人の審査員に全体の意見が引きずられてしまうことがある。
- ・審査委員会ごとに明確な審査基準がないために、審査員によって採点にばらつきがでてしまうこともある。RFA(特定の課題に対する募集)の場合は、どのような審査基準かが明記してある。ただ、全体からするとRFAの割合は小さい。

短所(3)革新的・ハイリスクな 研究への理解不足

- ・審査がたいへん保守的で、革新的だがリスクの高い研究申請に高い点数が付かないことがある。新しいアイデアの研究ほど前例となる研究やデータがないものである。

短所(4)審査プロセスの煩雑さ

- ・大きなGrant審査の場合、審査委員会によってはSite Visit(実地検分)を行う。これに費やす労力は審査員、申請者双方にとって膨大なものである。この準備にかかる労力だけで実際の研究が一つできてしまう。
- ・社会科学に対しては、審査委員会に理解のある人が少なく、研究計画に様々な注文をつけてくることが多い。そのため、修正して再申請を繰り返していると、承認まで無意味に時間がかかってしまう。

短所(5)審査員の負担の大きさ

- ・全ての申請書が、等しく同じ関心を持って審査されていない場合がある。これは、審査員の労働負担が大きいことによる。1年に3回ワシントンに行くが、事前に担当する10申請書を読み、コメントを書くのに2週間かかる。これは、大学の仕事外の負担となる。
- ・大学は職員に対して、より多くのGrantをとるようプレッシャーをかけるので、申請数は毎年増加している。これは、申請者、審査者双方にとって、ストレスを増大させる事態を招いている。他の国では、もっとうまくやっているのではないかという気もする。

短所(6)全体の助成方針の決定

- ・ある分野に研究資金が集中することがある。今は、Bio-terrorismでしばらく前はHIV/AIDSだった。人々は、その嵐が過ぎ去ると、なぜこの分野にこんなにお金を使うのかと言うものだ。
- ・今後この方向の研究を進めていったらいいという決定には、科学者の適切な意見が反映されるようになっている。ただ、そのように決定された優先順位が、必ずしも科学者全体の見方を反映していないことがある。

まとめ(審査について)

1. 高水準の公正さ(Fairness)が担保されているとの認識は共有されている。
2. その上で、審査員の質のばらつき、審査プロセスの煩雑さ、審査員の高負担が指摘されている。
3. 助成方針について、科学者の意見と政治的意図・世論との葛藤が存在する。